

The logo consists of a stylized letter 'A' formed by several overlapping, parallel green lines of varying lengths and orientations, creating a sense of depth and movement.

AGRIST

農業ロボットで 世界の食糧課題を解決



ビジネスで地域課題を解決する起業家

シリコンバレーから帰国。震災を機に地域貢献活動を開始

- シリコンバレーの音楽配信のスタートアップでサービスの責任者として働く
- 東日本大震災をきっかけに「ビジネスで地域課題を解決する」を使命に活動。全国10箇所以上の地域づくりに携わる。ガイアの夜明け出演。2015年から慶應義塾大学大学院で地域経済イノベーションの非常勤講師を務める。
- 2017年宮崎県新富町役場がつくったこゆ財団の代表理事に就任。1粒1000円ライチやふるさと納税で累計100億円以上の寄付を集める。2018年首相官邸で事例発表。2021年総務大臣賞を受賞。
- 2019年農業課題を解決するために自動収穫ロボットのAGRISTを創業。国内外で20以上の賞を受賞。2022年農林水産大臣賞、2023年には世界最大級の展示会「CES」でPRODUCT INNOVATION AWARDを受賞
- Forbes Asia100に選出やCNNで特集が組まれるなどその活動は国内のみならず海外からも評価を得ている



新富ライチ

農家との勉強会から生まれた事業

「ロボットが必要だ」農家の声から事業を開始



- 2017年から地元農家らと開催している「儲かる農業研究会」で収穫ロボット開発の必要性の声を聞く。共同創業者でCTO秦らが中心になり試作機を開発し、AGRIST株式会社を設立。県内では見湯郡が主産地となる「ピーマン」の収穫ロボット開発に取り組む。

課題農家の平均年齢は67歳

2030年には農業従事者数が半減しスマート農業が一般化する（日本農業情報システム協会より）



顧客の課題

収穫の担い手がいない



生産をしても収穫をする人がいない。収穫できないと木が弱ってしまう。他の仕事に人が流れている。急に辞めたいと言われて困る。扶養処理するために時間を制限する。農機具は必要以上の機能がありすぎる。先駆的な農機具は高すぎて買えない

100年先も続く

持続可能な農業を実現します

agri
to
100
years

地方のスタートアップの2つの強み

目の前に農場があり早い改善ができる



①農場の隣で開発

アグリストの開発拠点は農場の隣。製品開発の高速PDCAが可能。農家の福山氏と共同開発を行う事により顧客のニーズに近い製品を開発できる

②テクノロジー

シリコンバレーで経験を積んだ経営者と高専卒業メンバーの役員が農家の声を聞きながら社会インパクトを生み出すことにコミットをして活動をしている

自動化農業パッケージ

経験と勘で行う農業からの脱却

Sustagram Farm

「AIとロボットが創る、持続可能な農場。」

"Sustagram Farm: Cultivating the land, sustaining the earth"

農業パッケージを販売

AIを活用。人とロボットの連携

- ・ ロボット
- ・ 養液栽培
- ・ スマートハウス
- 収量予測
- 農場管理



1 スマートハウス

ロボットフレンドリーなハウスで、効率的な営農が可能です。収穫をしやすいよう、畝を狭くし移動効率を高め、軒高にすることでロボットに最適化されたビニールハウスです。バイオマスボイラーによって低炭素と低コストの両立も実現します。



2 自動収穫ロボット

人手不足の解消だけでなく、収穫残を無くし、木の着果負担を軽減することで樹勢の維持を助けます。



3 養液栽培

土壌特有の病害を回避することができ、灌水や追肥のデータの見える化が可能になるため、収量の最大化が見込めます。場所や土地を選ばず、土作りの手間がなく、冬春・夏秋の周年栽培を可能とします。

プロダクト紹介 | AI自動収穫ロボット

ピーマンAI自動収穫ロボット



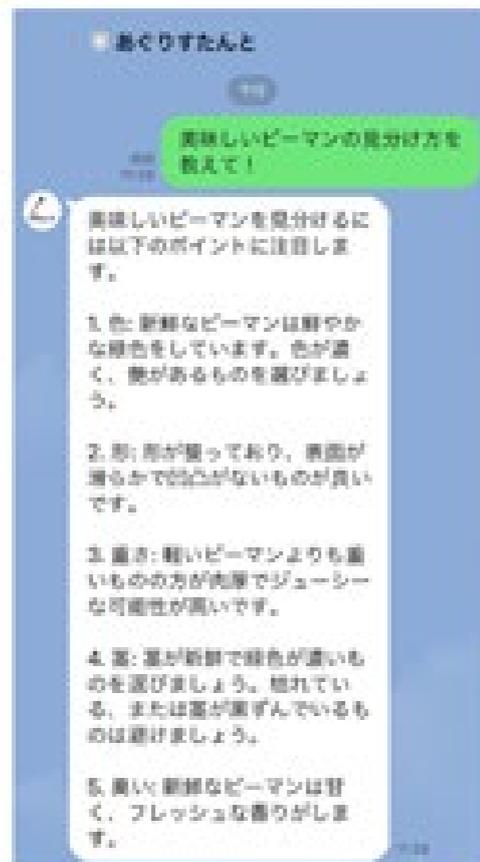
きゅうりAI自動収穫ロボット



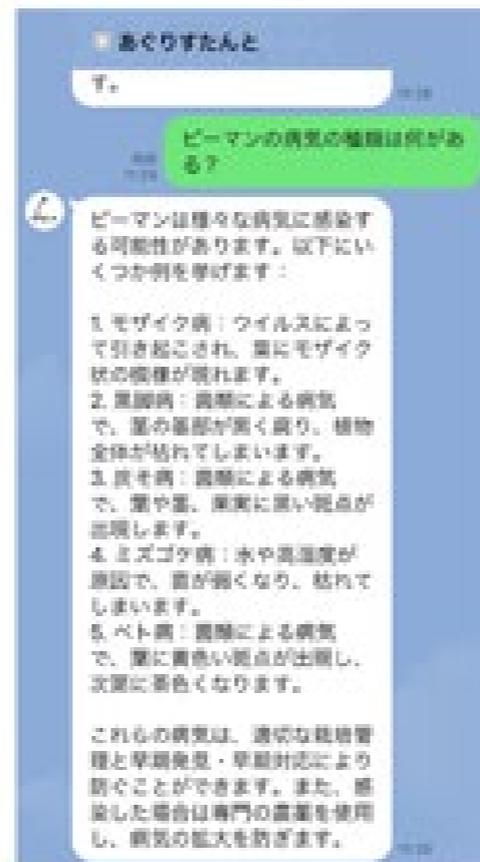
AIを活用したデータ農業

勘と経験に頼らない事業

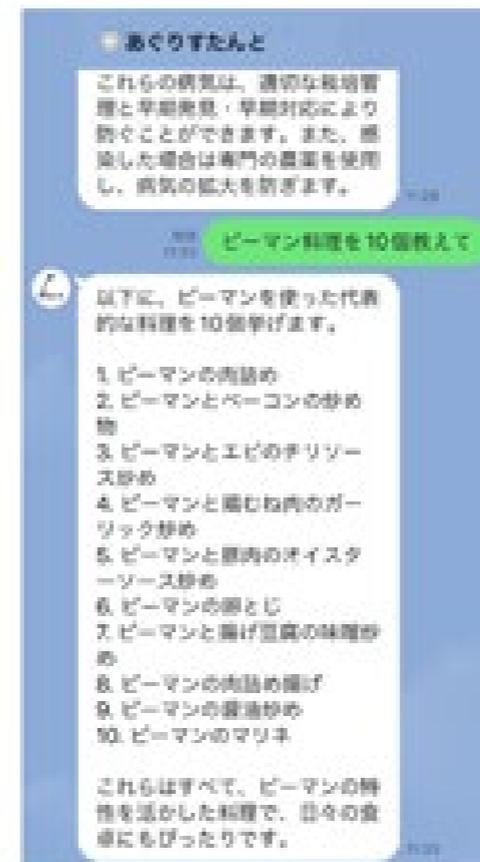
”あぐりすたんと”に実際に質問してみたら



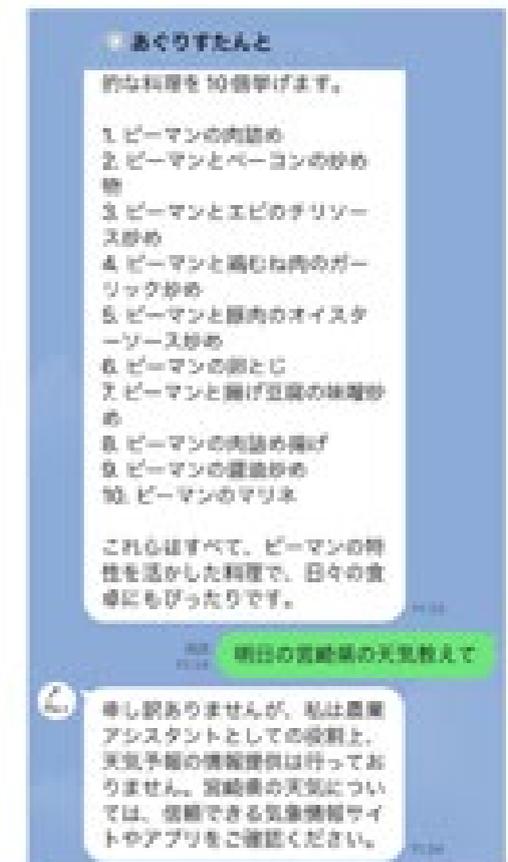
美味しいピーマンの見分け方



ピーマンの病気について



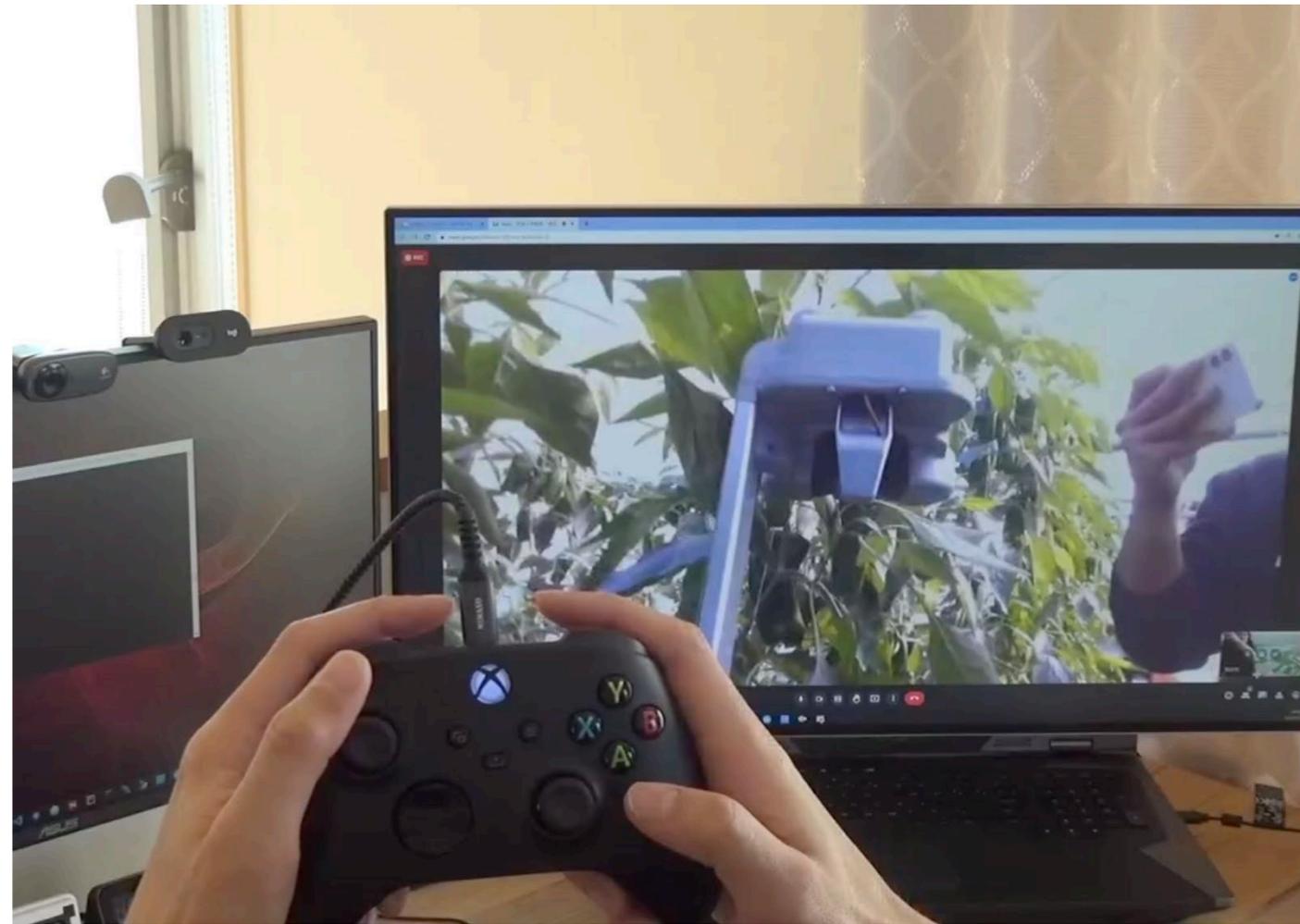
ピーマン料理について



明日の天気について

SDGsやESGなどの社会課題の解決にも挑戦

夜間走行や遠隔収穫によりあらたな雇用を創出



農林水産大臣賞を受賞

2022年10月に第10回ロボット大賞（農林水産大臣賞）を受賞



The Robot Award
農林水産大臣賞

**自動収穫ロボットを活用した
再現可能な農業の実現**

AGRIST株式会社

100年先も
持続可能な農業の実現に向けて



経産省のJ-Startup選定

ロボット分野の代表事例として経産省の資料に掲載

J-Startup

JP EN 三

J-Startup

Next
Growth
for Japan's
Startups.
Next Innovation
for the
World.



日本のスタートアップに
次の成長を。
世界に次の革新を。

J-Startup2021

AGRIST 株式会社

株式会社パナソニックサービス

株式会社アルム

株式会社アンドパッド

株式会社アロマジョイン

株式会社ピースポーク

株式会社ビットキー

CoreTissue BioEngineering 株式会社

株式会社クレードル

DAIZ 株式会社

株式会社ファーストアセント

GITAI Japan 株式会社

株式会社 糖鎖工学研究所

五常・アンド・カンパニー株式会社

株式会社グラファー

iHeart Japan 株式会社

株式会社 I'mbesideyou

インスタリム株式会社

株式会社 KabuK Style

株式会社カケハシ

京都フュージョニアリング株式会社

株式会社 LegalForce

株式会社リクシス

株式会社 Magic Shields

メロディ・インターナショナル株式会社

メトロウェザー株式会社

株式会社 MICIN

PD エアロスペース株式会社

株式会社プランテックス

PuREC 株式会社

株式会社 RevComm

株式会社 Shippio

株式会社 SkyDrive

株式会社スカイマティクス

株式会社 Space Power Technologies

株式会社 Spider Labs

スタートバーン株式会社

株式会社 Synspective

株式会社 TBM

株式会社タイミー

株式会社 TRUSTDOCK

Ubie 株式会社

ユニファ株式会社

UPWARD 株式会社

株式会社ウーオ

VLP セラピューティクス・ジャパン

株式会社 WAKAZE

WASSHA 株式会社

株式会社ヤマップ

G7宮崎農業大臣会合にて高く評価

2023年4月宮崎県宮崎市で開催されたG7宮崎農業大臣会合において、ピーマン自動収穫ロボット「L」を展示し、各国の大臣や政府関係者の皆様にテクノロジーを活用した農業を紹介いたしました。



官民連携イノベーション

2023年4月にピーマン収穫ロボットによる持続可能な農業の実現に向けた次世代農業事業を事業化することを目的とする連携協定を締結

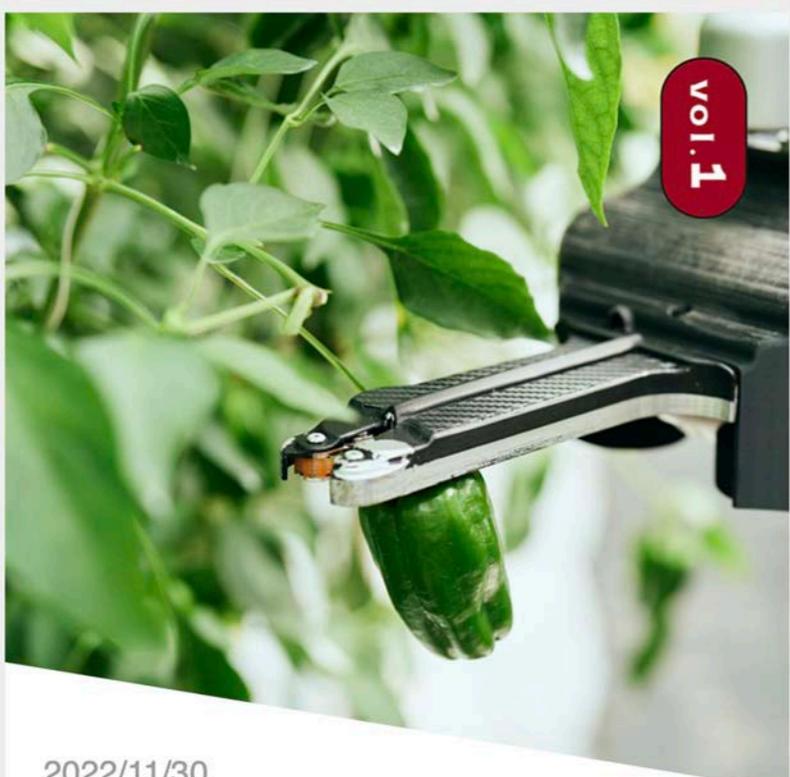


参考資料：なぜ地方でビジネスを起こすのか

ビジネスメディア大手のNewspicksで特集記事

NEWS PICKS

← コメントページ



vol.1

2022/11/30
【宮崎】「1ヘクタールで1億稼ぐ」スマート農業は広がるか

中村 信義
NewsPicks for Business編集長

[連載一覧へ>](#)



vol.2

2022/11/30
シリコンバレー帰りの起業家はなぜ地方でビジネスを起こすのか



vol.3

2022/12/3
【宮崎】ふるさと納税を3年で95倍集めた小さな町の大戦略

<https://newspicks.com/news/7828765>

地方から世界の農業課題を解決する

人口約16000人の町から

日本を元気に、世界を元気に、地球を元気に

